

2018年～2020年における 新潟港、直江津港を經由した貿易動向

ERINA 経済交流部長
安達祐司

はじめに

2018年から2020年にかけて、日本を取り巻く国際的な政治・経済状況が大きく変化した。とりわけ、2019年12月に中国で発生したとされる新型コロナウイルスによる感染症は、世界中にパンデミックを引き起こし、未だ収束せず、世界経済に大きな影響を与えている。また、2018年7月以降、米国と中国の貿易摩擦は相互に追加関税を掛け合う形で始まり、最近では、双方の輸出規制の域外適用なども日本を含め多くの国の対米、対中貿易に影響を及ぼしていると見られる。2021年1月に発足したバイデン政権は対中国強硬姿勢を打ち出しており、米中摩擦は長期化が予想される。

さらに、日韓関係も2018年11月、韓国大法院（日本の最高裁に相当）が日本企業に戦時中の元徴用工に対する賠償金支払いを命じる判決を出したことをきっかけに悪化し、2019年7月に日本政府が韓国向けの半導体素材3品目の輸出規制強化を打ち出し、8月には輸出手続きを簡略化できる優遇国「ホワイト国」のリストから韓国を外すなど、両国の通商摩擦に発展した。韓国では日本製品の不買運動まで起きている。この日韓関係も現状、改善の兆しは見られない。

2020年8月発行のERINA REPORT (PLUS) No.155における拙稿「新潟港、直江津港を經由した貿易動向」¹と重複する部分もあるが、新型コロナウイルス感染症のパンデミック、米中摩擦、日韓関係悪化といった経済にとっては負の事象が継続している中で、本稿では2018年～2020年（暦年、以下同じ）の財務省貿易統計等により、中国や韓国等関係国と定期航路

を有する新潟港および直江津港を經由した新潟県の貿易動向の変化を検証する。なお、輸出入に京浜港等県外港を利用する新潟県企業も多く、また、新潟県の隣接県等他県企業も新潟港、直江津港を利用していることから、両港の通関データが直ちに新潟県全体の貿易状況を反映するものではないことを付記する。なお、本稿で引用している財務省貿易統計の金額は、筆者が百万円単位に換算している。

1. 日本全体の状況

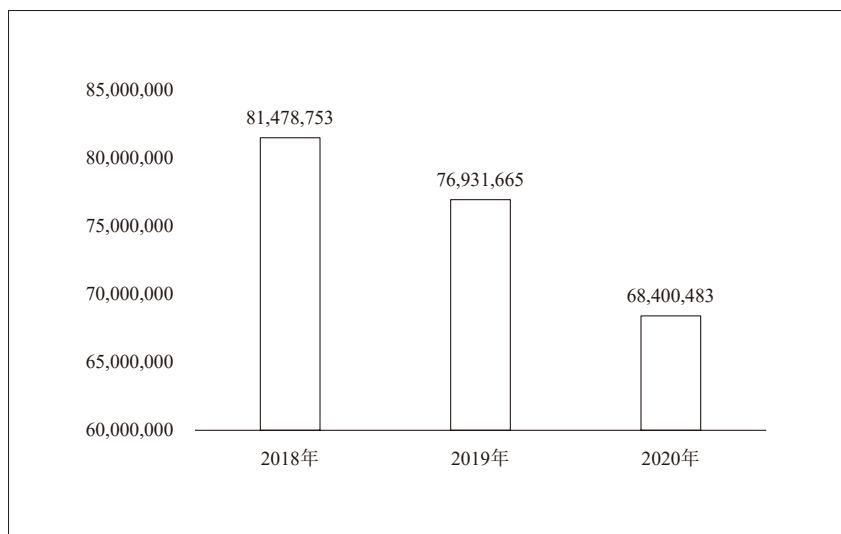
まず、2018年から2020年における日本全体の輸出入状況を検証する。輸出は、図1に示す通り、2018年から年々減少しており、2020年で約68兆4千億円となり、対2019年比11%減、対2018年比では16%減となっている。表1で各年における輸出相手国上位10カ国ランキングを示す。表

1に示す通り、2018年～2020年の3カ年においては、上位6カ国の国・地域は同一であるが、2019年では1位、2位で中国と米国の順位が逆転しているほか、4位の台湾を除いた5カ国・地域の輸出金額はいずれも年々減少している。次に、当該3カ年の輸入総額を図2に示す。輸入も図2に示す通り、2018年から年々減少しており、2020年で約67兆8,370億円となり、対2019年比14%減、対2018年比では18%減となっている。

（一社）日本貿易会の「日本貿易の現状2020」及び「日本貿易の現状2021」によれば、輸出減少の主な要因は米中摩擦及び新型コロナウイルス感染拡大の影響による自動車や自動車部品等の減少であり、輸入については、原油価格下落による原油・粗油、石油製品、LNG等の鉱物性燃料の減少であるとしている。

表2では、輸入減少の要因となった鉱

図1 2018年～2020年の日本全体の輸出額推移：百万円



出所：財務省貿易統計

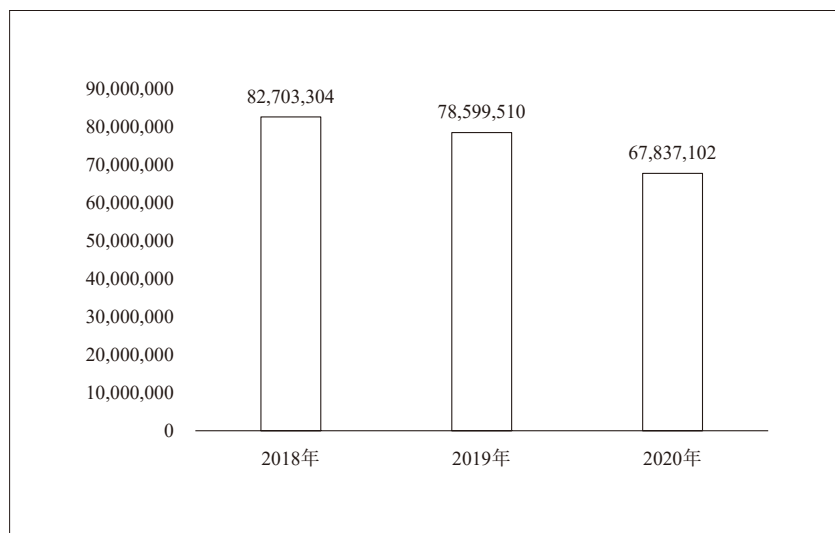
¹ https://www.erina.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/pp15520_tssc.pdf。

表1 2018年～2020年の輸出相手国上位10カ国ランキング:百万円

順位	2018年		2019年		2020年	
	国・地域	金額	国・地域	金額	国・地域	金額
1	中国	15,897,740	米国	15,254,513	中国	15,081,922
2	米国	15,470,237	中国	14,681,945	米国	12,612,187
3	韓国	5,792,562	韓国	5,043,824	韓国	4,766,560
4	台湾	4,679,208	台湾	4,688,545	台湾	4,739,152
5	香港	3,832,339	香港	3,665,365	香港	3,414,504
6	タイ	3,562,499	タイ	3,290,636	タイ	2,722,580
7	シンガポール	2,584,088	ドイツ	2,205,122	シンガポール	1,887,603
8	ドイツ	2,305,587	シンガポール	2,198,787	ドイツ	1,875,242
9	オーストラリア	1,886,230	ベトナム	1,797,058	ベトナム	1,825,823
10	ベトナム	1,814,163	オーストラリア	1,579,821	マレーシア	1,343,467

出所:財務省貿易統計

図2 2018年～2020年の日本全体の輸入額推移:百万円



出所:財務省貿易統計

表2 2018年～2020年の輸入相手国上位10カ国ランキング:百万円

順位	2018年		2019年		2020年	
	国・地域	金額	国・地域	金額	国・地域	金額
1	中国	19,030,895	中国	18,338,115	中国	17,420,478
2	米国	7,945,870	米国	7,536,972	米国	6,617,623
3	韓国	2,998,928	台湾	2,912,416	台湾	2,853,101
4	台湾	2,994,564	韓国	2,798,135	タイ	2,534,536
5	ドイツ	2,866,790	タイ	2,754,721	韓国	2,524,076
6	タイ	2,752,971	ドイツ	2,719,981	ベトナム	2,331,808
7	ベトナム	2,292,874	ベトナム	2,417,172	ドイツ	2,263,771
8	インドネシア	1,161,833	オーストラリア	1,627,029	オーストラリア	1,428,159
9	オーストラリア	1,569,926	インドネシア	1,416,015	インドネシア	1,322,465
10	マレーシア	1,398,522	マレーシア	1,366,316	マレーシア	1,235,142

出所:財務省貿易統計

物性燃料を除いた輸入相手国上位10カ国ランキングを示す。表2で示す通り、3カ年での1位、2位は中国、米国で変化はないが、他の上位国・地域も含め、鉱物性燃料を除いた輸入でも概ね減少となっている。

2. 新潟港及び直江津港の状況

次に、2018年～2020年における新潟港及び直江津港の貿易状況を検証する。

2-1. 新潟港

(1) 輸出

2018年～2020年の新潟港の全体輸出額の推移を図3に示す。図3に示すように、2020年の輸出額は984億円で、対2019年比は4.5%減だが、対2018年比では19%減と減少幅は大きくなっている。

当該3カ年の輸出額上位10カ国のランキングを表3に示す。

表3のうち、順位に若干の入れ替えがあるものの、上位5カ国として、中国、韓国、米国、台湾、ベトナムないしタイが名を連ねている。2018年における1位は中国だが、2019年、2020年は韓国1位、中国2位と順位が入れ替わっている。また、上位2カ国とも年々減少しているが、減少幅は対韓国輸出の方が小さい。米国向け輸出は、2019年から2020年の減少幅が大きく、順位も3位から4位に下げている。

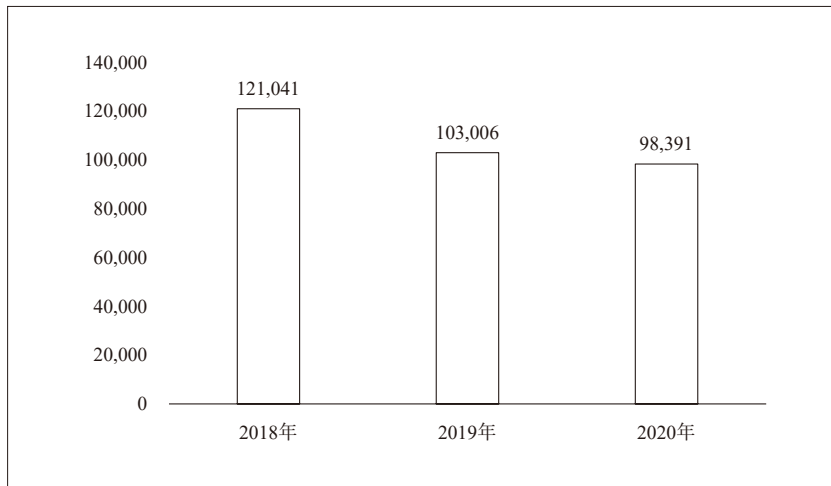
次に、冒頭に述べた米中摩擦、新型コロナウイルス、日韓関係悪化の観点から当該3カ年における新潟港の対中国、韓国、米国向け輸出品ごとの金額の推移を財務省貿易統計の概況品レベルで見定める(表中のカッコ内数値は内数)。

表4に示す通り、新潟港の対中国向け輸出は2018年から2020年にかけて減少している。特に、パルプ及び古紙を中心とする原材料や化学製品の減少が目立っている。

逆に、機械類及び輸送用機器は増加している。

表5が示す通り、2018年～2020年における新潟港の対韓国輸出も減少しているが、中国向け輸出に比べて減少幅が小さいため2019年、2020年では新潟港輸出相手国の1位となっている。概況品のうち

図3 2018年～2020年の新潟港の輸出額推移:百万円



出所:財務省貿易統計

減少幅が目立つのは原材料や化学製品であり、逆に原料別製品は増加している。なお、食料品及び動物、飲料及びたばこが、金額は少額ながら減少しており、日本製品不買運動など日韓関係の悪化の影響を受けている可能性がある。

表6が示す通り、2018年～2020年における新潟港の対米輸出も減少を続けている。特に2020年の輸出額は対前年比3割近く落ち込んでおり、中でも機械類の減少が著しい。米国向け輸出の減少は、新型コロナウイルス感染拡大による経済状況の悪化が背景にあると思われる。

表3 2018年～2020年の新潟港輸出相手国上位10カ国ランキング:百万円

順位	2018年		2019年		2020年	
	国・地域	金額	国・地域	金額	国・地域	金額
1	中国	26,510	韓国	25,042	韓国	24,065
2	韓国	25,997	中国	20,230	中国	19,636
3	米国	10,361	米国	9,177	台湾	9,735
4	台湾	10,356	台湾	9,038	米国	6,520
5	ベトナム	5,708	タイ	4,516	ベトナム	5,403
6	フィリピン	5,051	ベトナム	3,981	香港	5,365
7	タイ	4,668	香港	3,662	ロシア	3,064
8	香港	4,469	インド	3,203	ミャンマー	2,886
9	インド	3,738	ロシア	3,075	タイ	2,774
10	マレーシア	3,350	マレーシア	2,147	インド	2,225

出所:財務省貿易統計

表4 2018年～2020年における新潟港の中国向け輸出品目ごとの金額の推移:百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	0	↗	7	↘	0
飲料及びたばこ	1	↘	0	→	0
原材料	3,110	↘	1,098	↘	1,028
内、パルプ及び古紙	(1,749)		(717)		(631)
化学製品	12,804	↘	12,517	↘	8,936
内、有機・無機化合物	(3,077)		(3,494)		(1,556)
プラスチック	(7,875)		(7,319)		(6,199)
原料別製品	5,824	↘	2,949	↗	4,161
内、紙類及び同製品	(4,359)		(1,527)		(2,898)
金属製品	(934)		(956)		(840)
機械類及び輸送用機器	3,564	↘	2,565	↗	4,594
内、一般機械	(2,886)		(2,168)		(2,361)
電気機器	(645)		(365)		(1,858)
雑製品	747	↘	704	↘	472
内、精密機器類	(309)		(307)		(91)
特殊取扱品	460	↘	390	↗	445
合計	26,510	↘	20,230	↘	19,636

出所:財務省貿易統計

表5 2018年～2020年における新潟港の韓国向け輸出品目ごとの金額の推移：百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	284	↘	139	↘	81
飲料及びたばこ	442	↘	307	↘	191
原材料	3,646	↘	3,251	↘	2,182
内、金属鉱及びびくず	(3,169)		(2,767)		(1,739)
動植物性油脂	7	↗	11	↗	21
化学製品	11,250	↗	12,091	↘	10,836
内、有機・無機化合物	(7,045)		(7,241)		(6,580)
プラスチック	(1,480)		(1,435)		(908)
原料別製品	4,941	↘	4,247	↗	5,140
内、紙類及び同製品	(439)		(971)		(1,063)
非金属鉱物製品	(231)		(221)		(1,799)
鉄鋼	(1,814)		(926)		(296)
金属製品	(1,830)		(1,490)		(1,480)
機械類及び輸送用機器	4,494	↘	3,884	↗	4,201
内、一般機械	(3,766)		(3,544)		(3,775)
電気機器	(672)		(337)		(406)
雑製品	632	↘	608	↗	717
内、精密機器類	(234)		(245)		(315)
特殊取扱品	301	↗	504	↗	696
合計	25,997	↘	25,042	↘	24,065

出所：財務省貿易統計

表6 2018年～2020年における新潟港の米国向け輸出品目ごとの金額の推移：百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	4	↗	11	↘	0
飲料及びたばこ	125	↗	187	↘	134
原材料	586	↘	437	↘	354
内、金属鉱及びびくず	(586)		(408)		(295)
化学製品	1,967	↗	2,128	↘	1,802
内、有機・無機化合物	(970)		(1,626)		(1,116)
プラスチック	(995)		(499)		(683)
原料別製品	932	↘	657	↘	453
内、金属製品	(451)		(357)		(304)
機械類及び輸送用機器	5,816	↘	5,325	↘	3,590
内、一般機械	(2,885)		(2,412)		(1,337)
電気機器	(2,928)		(2,907)		(1,513)
雑製品	486	↘	354	↘	137
内、精密機器類	(436)		(314)		(97)
特殊取扱品	445	↘	78	↘	50
合計	10,361	↘	9,177	↘	6,520

出所：財務省貿易統計

(2) 輸入

2018年～2020年における鉱物性燃料を除いた新潟港の輸入状況について検証する。当該年の新潟港での輸入額額の推移を図4に示す。

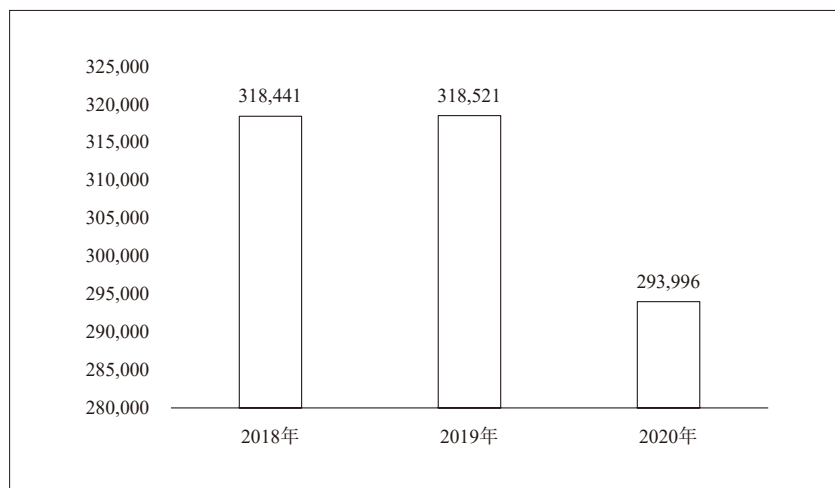
2018年の輸入額は3184億円、2019年

は3185億円とほぼ同じ水準だが、2020年は2940億円と対前年比8%減少している。当該3カ年の輸入額上位10カ国のランキングを表7に示す。なお、輸入額は鉱物性燃料を除いた値である。

2018年～2020年の輸入については、

表7に示す通り上位3カ国は中国、韓国、米国と変動はなく、また、輸入額も減少傾向であるが、目立った落ち込みはない。輸出と同様、上位3カ国からの主な輸入品の金額の推移を財務省貿易統計の概況品レベルで見えてみる。

図4 2018年～2020年の新潟港の輸入額推移(鉱物性燃料を除く):百万円



出所:財務省貿易統計

表7 2018年～2020年の新潟港輸入相手国上位10カ国ランキング単位:百万円

順位	2018年		2019年		2020年	
	国・地域	金額	国・地域	金額	国・地域	金額
1	中国	159,285	中国	156,534	中国	154,423
2	韓国	24,540	韓国	23,381	韓国	20,160
3	米国	20,841	米国	22,118	米国	19,461
4	チリ	12,975	チリ	14,809	ベトナム	11,901
5	南アフリカ	10,628	南アフリカ	10,912	チリ	10,493
6	タイ	10,086	タイ	10,164	タイ	9,656
7	サウジアラビア	9,992	ベトナム	9,847	ドイツ	8,778
8	マレーシア	8,579	マレーシア	8,439	南アフリカ	7,728
9	ベトナム	7,387	ロシア	7,701	マレーシア	7,050
10	台湾	6,585	ドイツ	7,237	ロシア	7,002

出所:財務省貿易統計

表8 2018年～2020年における新潟港の対中国輸入品目ごとの金額の推移:百万円

概況品名	2018年	2019年		2020年	
	金額	増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	14,921	↘	14,865	↗	15,447
内、穀物及び同調製品	(5,776)		(5,515)		(5,761)
果実及び野菜	(7,078)		(6,741)		(7,066)
飲料及びたばこ	0	→	0	↗	14
原材料	2,026	↘	1,810	↘	1,727
内、粗鉱物	(1,034)		(853)		(742)
動植物性油脂	44	↗	188	↗	192
化学製品	16,550	↗	19,619	↗	19,712
内、有機・無機化合物	(8,186)		(10,806)		(10,686)
プラスチック	(3,452)		(3,617)		(3,351)
原料別製品	53,779	↘	52,876	↗	54,837
内、織物用糸及び繊維製品	(9,823)		(10,550)		(11,342)
金属製品	(26,170)		(24,252)		(25,673)
機械類及び輸送用機器	37,737	↘	31,593	↘	29,309
内、一般機械	(20,007)		(13,981)		(11,760)
電気機器	(13,666)		(12,111)		(12,411)
雑製品	33,470	↗	35,325	↘	32,942
内、家具	(4,921)		(5,217)		(5,388)
衣類及び同附属品	(3,992)		(5,466)		(4,956)
はき物	(4,209)		(4,188)		(3,256)
特殊取扱品	758	↘	258	↘	243
合計	159,285	↘	156,534	↘	154,423

出所:財務省貿易統計

表8に示す通り、中国からの輸入概況品については、機械類の減少及び2020年の雑製品の減少が若干目立つ程度で、全体として大きな変動は見られず、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染拡大等の影響は限定的と思われる。

次に、韓国からの輸入額の推移を表9に示す。

2018年～2020年の韓国からの輸入額は2019年が234億円で対前年比5%減、2020年は、202億円で対前年比14%減、対2018年比では18%減となっており、日韓関係の悪化の影響が出ている可能性がある。品目別では、化学製品や機械類の減少が目立つ。

次に、米国からの輸入額の推移を表10に示す。

新潟港の米国からの輸入については、概ね200億円前後で推移している。2019年は対前年増加したものの、2020年は対前年12%減少している。減少が目立つのは、食料品と機械類となっている。

表9 2018年～2020年における新潟港の対韓国輸入品目ごとの金額の推移：百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	686	↗	704	↗	832
飲料及びたばこ	73	↘	40	↗	54
原材料	24	↗	120	↗	162
化学製品	8,911	↘	6,783	↘	5,743
内、有機・無機化合物	(3,013)		(2,751)		(2,171)
プラスチック	(4,866)		(3,776)		(2,856)
原料別製品	6,558	↗	6,895	↗	7,352
内、金属製品	(3,555)		(3,857)		(3,332)
卑金属製の家庭用品	(2,875)		(2,830)		(2,783)
機械類及び輸送用機器	4,276	↘	3,701	↘	3,203
内、一般機械	(2,741)		(2,337)		(2,009)
電気機器	(1,521)		(1,333)		(1,178)
雑製品	1,257	↘	943	↗	1,086
内、精密機器類=科学光学機器	(233)		(57)		(97)
写真用・映画用材料	(348)		(292)		(241)
特殊取扱品	2,755	↗	4,195	↘	1,728
合計	24,540	↘	23,381	↘	20,160

出所：財務省貿易統計

表10 2018年～2020年における新潟港の対米国輸入品目ごとの金額の推移：百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	10,605	↘	8,687	↘	7,047
内、魚介類及び同調整品	(2,636)		(2,671)		(2,281)
穀物及び同調整品	(7,757)		(5,914)		(4,622)
原材料	1,532	↘	1,518	↘	1,153
内、粗鉱物	(1,082)		(1,147)		(958)
化学製品	6,684	↗	8,810	↗	9,254
内、無機化合物	(3,601)		(5,718)		(7,406)
鉱物性タール及び粗製薬品	(2,847)		(1,721)		(802)
原料別製品	962	↗	976	↘	542
内、ガラス及び同調整品	(826)		(866)		(411)
機械類及び輸送用機器	554	↗	1,697	↘	1,007
内、自動車の部分品	(487)		(904)		(552)
雑製品	331	↗	389	↘	359
特殊取扱品	173	↘	41	↗	99
合計	20,841	↗	22,118	↘	19,461

出所：財務省貿易統計

2-2. 直江津港

(1) 輸出

2018年～2020年の直江津港の全体輸出額の推移を図5に示す。図5に示す通り、直江津港の輸出は、2019年で439億円と対前年比5%減少、2020年も440

億円とほぼ前年と同水準となり、この3カ年では大きな変動は見られない。

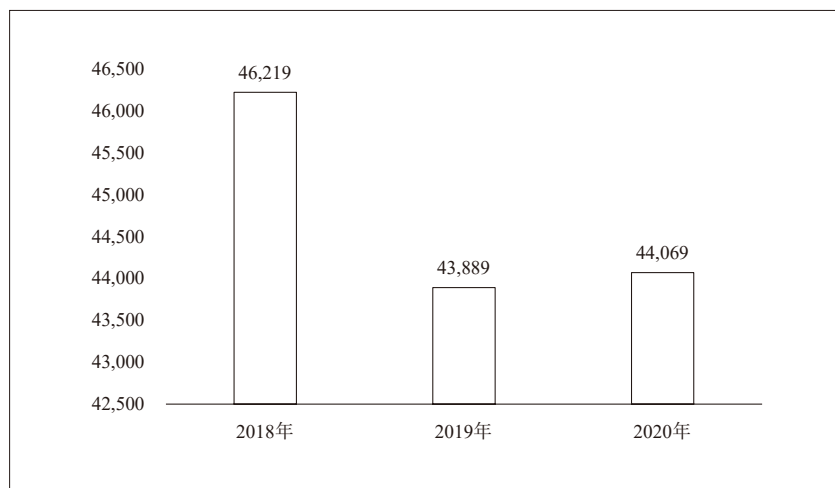
当該3カ年の輸出額上位10カ国のランキングを表11に示す

表11に示す通り、3カ年における直江津港の上位輸出相手国は、6位まで順位

の変動はなく、輸出額についてもほぼ同じ水準で推移している。本稿の趣旨に沿い、新潟港と同様、対韓国、中国、米国向け輸出品ごとの推移を財務省貿易統計の概況品レベルで見定める。

表12に示す通り、直江津港における

図5 2018年～2020年の直江津港の輸出額推移:百万円



出所:財務省貿易統計

2018年～2020年の韓国向け輸出は、100億円前後で推移している。2019年には97億円と対前年若干減少したが、2020年には102億円と対前年比5%増加している。全体額の推移や半導体製造装置がコンスタントに輸出されていることなどから日韓関係悪化の影響は見受けられない。

次に表13に示す通り、直江津港の中国向け輸出は、2018年は63億円であったが、2019年は54億円と14%減少、2020年も55億円とほぼ横ばいとなっている。減少幅が大きいのは生ゴムや金属鉱・くずを中心とする原材料となっている。

表14に示す通り、直江津港における2018年対米国輸出は46億円、2019年で44億円と5.5%減となったが、2020年で47億円と2018年レベルに戻っている。輸出品目もほぼ一定しており、新型コロナウイルス等の外部環境変化の影響は見られない。

表11 2018年～2020年の直江津港輸出相手国上位10カ国ランキング:百万円

順位	2018年		2019年		2020年	
	国・地域	金額	国・地域	金額	国・地域	金額
1	韓国	9,812	韓国	9,747	韓国	10,240
2	ドイツ	6,403	ドイツ	6,275	ドイツ	7,076
3	中国	6,316	中国	5,420	中国	5,504
4	米国	4,635	米国	4,376	米国	4,760
5	インド	4,126	インド	3,813	インド	3,043
6	台湾	2,458	台湾	2,651	台湾	2,709
7	インドネシア	1,913	インドネシア	2,145	ベトナム	2,249
8	タイ	1,304	ベトナム	1,210	インドネシア	1,201
9	ベトナム	1,280	ベルギー	1,078	オランダ	791
10	フィリピン	1,210	オランダ	1,005	メキシコ	717

出所:財務省貿易統計

表12 2018年～2020年における直江津港の韓国向け輸出品ごとの金額の推移:百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
飲料及びたばこ	0	→	0	↗	7
原材料	3,950	↘	3,764	↘	2,773
内、生ゴム	(1,393)		(1,149)		(551)
金属鉱及びくず	(2,303)		(2,350)		(1,933)
動植物性油脂	0	→	0	↗	4
化学製品	2,702	↗	3,784	↗	4,744
内、有機・無機化合物	(1,092)		(2,205)		(3,208)
プラスチック	(1,167)		(1,306)		(1,218)
原料別製品	783	↘	408	↗	472
内、鉄鋼	(500)		(237)		(306)
機械類及び輸送用機器	2,289	↘	1,718	↗	2,157
内、一般機械=半導体製造装置	(2,129)		(1,605)		(1,915)
雑製品	88	↘	73	↗	79
特殊取扱品	0	→	0	↗	4
合計	9,812	↘	9,747	↗	10,240

出所:財務省貿易統計

表13 2018年～2020年における直江津港の中国向け輸出品ごとの金額の推移：百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
原材料	3,504	↘	1,811	↘	901
内、生ゴム	(2,305)		(1,710)		(813)
金属鉱及びくず	(1,137)		(39)		(34)
鉱物性燃料	0	↗	1	→	1
化学製品	1,283	→	1,282	↗	1,812
内、プラスチック	(1,049)		(1,052)		(1,410)
原料別製品	923	↗	1,026	↘	728
内、非鉄金属	(736)		(830)		(510)
金属製品	(111)		(106)		(97)
機械類及び輸送用機器	231	↗	354	↗	554
内、一般機械	(122)		(147)		(187)
雑製品	221	↗	810	↗	1,403
内、写真用・映画用材料	(0)		(784)		(1,386)
特殊取扱品	152	↘	136	↘	105
合計	6,314	↘	5,420	↗	5,504

出所：財務省貿易統計

表14 2018年～2020年における直江津港の米国向け輸出品ごとの金額の推移：百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
化学製品	2,528	↗	2,665	↗	2,992
内、プラスチック	(2,487)		(2,655)		(2,987)
原料別製品	666	↗	835	↘	815
内、非金属鉱物製品	(491)		(680)		(718)
機械類及び輸送用機器	1,441	↘	876	↗	953
内、一般機械=エキスカベーター	(1,441)		(876)		(953)
合計	4,635	↘	4,376	↗	4,760

出所：財務省貿易統計

(2) 輸入

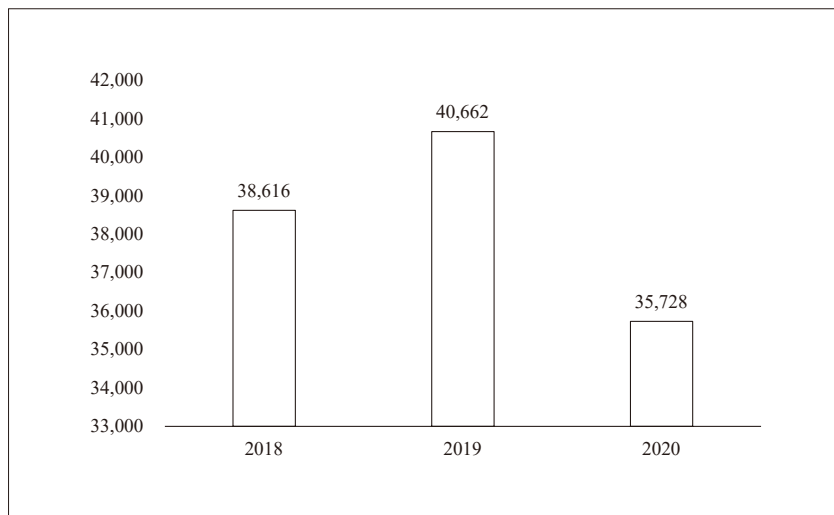
新潟港と同様に、2018年～2020年における鉱物性燃料を除いた直江津港の輸入状況について検証する。当該年の直江津港での輸入額の推移を図6に示す。

2018年の輸入額は386億円、2019年は407億円と対前年比5%増となったが、2020年では357億円と対前年比12%減、対2018年比でも7.5%減となり、新型コロナウイルス等外部環境の変化が影響している可能性はある。

当該3カ年の輸入額上位10カ国のランキングを表15に示す。

2018年～2020年における上位3カ国は

図6 2018年～2020年の直江津港の鉱物性燃料除く輸入額推移：百万円



出所：財務省貿易統計

表15 2018年～2020年の直江津港輸入相手国上位10カ国ランキング:百万円

順位	2018年		2019年		2020年	
	国・地域	金額	国・地域	金額	国・地域	金額
1	中国	15,640	中国	17,942	中国	15,987
2	米国	3,938	米国	3,885	米国	3,800
3	韓国	2,920	韓国	3,153	韓国	3,696
4	ロシア	2,030	インド	2,290	オーストラリア	1,507
5	フィリピン	1,953	フィリピン	2,158	フィリピン	1,425
6	インド	1,648	オーストラリア	1,696	アルゼンチン	1,339
7	オーストラリア	1,331	ベトナム	1,678	インド	1,282
8	カナダ	1,276	アルゼンチン	1,070	カナダ	959
9	ベトナム	1,218	トリニダードトバゴ	1,064	ベトナム	931
10	アルゼンチン	1,069	インドネシア	1,063	ロシア	921

出所:財務省貿易統計

中国、米国、韓国と変動はない。2020年輸入額の対2019年比減少は、主に4位以下の国・地域の輸入額減少が影響している。

新潟港と同様、上位3カ国からの主な輸入品の金額の推移をしてみる。

中国からの輸入については、表16に示す通り、2019年が179億円と対前年比15%の増加となったが、2020年には160億円と2019年比11%の減少に転じた。機械類は増加傾向であるが、原材料、化学製品の減少が目立っている。

表16 2018年～2020年における直江津港の対中国輸出品目ごとの金額の推移:百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	1,107	↘	1,031	↘	808
内、果実及び野菜	(402)		(416)		(228)
飼料	(703)		(614)		(579)
原材料	1,746	↘	1,589	↘	1,164
内、パルプ及び古紙	(668)		(566)		(436)
粗鉱物	(736)		(461)		(379)
鉱物性燃料	0	→	0	↗	1
化学製品	5,240	↗	6,538	↘	3,626
内、無機化合物	(4,775)		(6,029)		(3,293)
原料別製品	1,095	↘	944	↗	1,470
内、織物用糸及び繊維製品	(304)		(337)		(347)
金属製品	(166)		(201)		(603)
機械類及び輸送用機器	6,012	↗	7,527	↗	8,682
内、一般機械	(3,278)		(4,861)		(6,766)
輸送用機器	(2,110)		(1,756)		(947)
雑製品	248	↗	271	↘	236
特殊取扱品	192	↘	42	↘	0
合計	15,640	↗	17,942	↘	15,987

出所:財務省貿易統計

表17 2018年～2020年における直江津港の対米国輸出品目ごとの金額の推移:百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	39	↗	68	↗	154
原材料	1,941	↗	2,143	↘	1,965
内、パルプ及び古紙	(1,820)		(2,111)		(1,924)
化学製品	1,943	↘	1,663	↗	1,681
内、有機・無機化合物	(1,943)		(1,663)		(1,681)
機械類及び輸送用機器	11	↘	0	→	0
特殊取扱品	4	↗	11	↘	0
合計	3,938	↘	3,885	↘	3,800

出所:財務省貿易統計

表18 2018年～2020年韓国からの主な輸入品：百万円

概況品名	2018年 金額	2019年		2020年	
		増減	金額	増減	金額
食料品及び動物	3	↗	5	→	5
飲料及びたばこ	9	↘	0	→	0
原材料	78	↗	126	↗	167
内、生ゴム	(51)		(84)		(96)
化学製品	1,425	↘	1,115	↗	1,384
内、プラスチック	(1,414)		(1,114)		(1,384)
原料別製品	503	↗	635	↗	704
内、木製品及びコルク製品	(109)		(76)		(86)
非鉄金属	(260)		(251)		(155)
機械類及び輸送用機器	857	↗	1,167	↗	1,334
内、一般機械	(672)		(1,020)		(1,225)
雑製品	16	↗	68	↘	56
特殊取扱品	29	↗	37	↗	46
合計	2,920	↗	3,153	↗	3,696

出所：財務省貿易統計

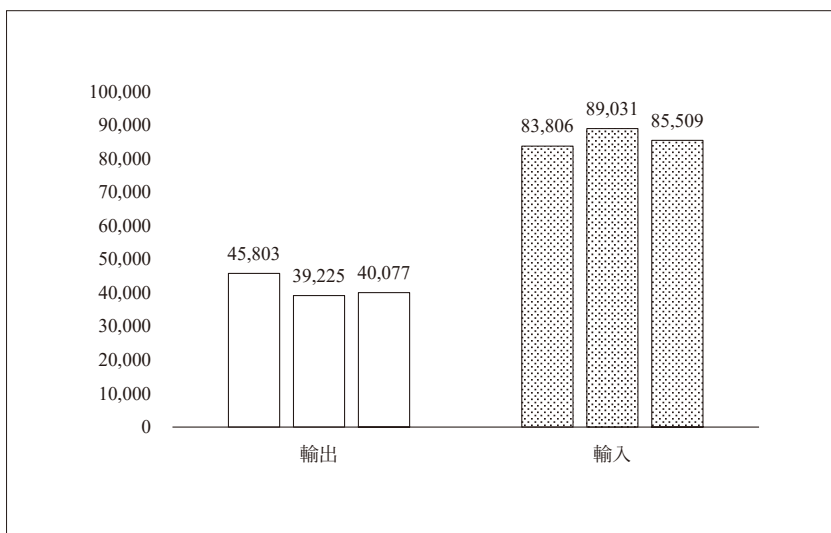
次に、米国からの輸入額の推移を表17に示す。

米国からの輸入については、2018年から2020年にかけて39億円から38億円と小幅な減少が続いている。また、品目の変動もほぼない。

次に、韓国からの輸入額の推移を表18に示す。

直江津港の韓国からの輸入は、2019年が32億円と対前年比8%、2020年は37億円と対前年比17%と3カ年で継続して増加している。品目別では、機械類の増加が目立つ。直江津港の対韓国輸入については、品目・規模は小規模ながら日韓関係悪化の影響は見られない。

図7 2018年～2020年新潟港の実入り輸出入コンテナ取扱実績：TEU



出所：新潟県交通政策局のデータに基づき作成

3. 新潟港、直江津港の輸出入コンテナの推移

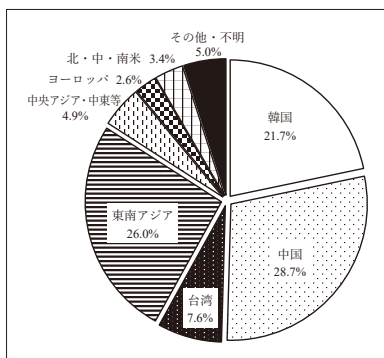
2018年～2020年の新潟港、直江津港の貿易状況について、参考として、新潟県交通政策局がまとめた輸出入コンテナの推移を記載する。

3-1. 新潟港

2018年～2020年の新潟港における実入り輸出入コンテナ²の取扱実績を図7に示す。

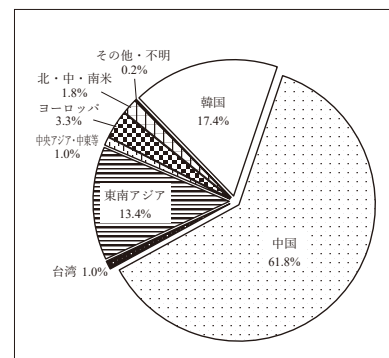
図7が示す通り、2018年の輸出は45803

図8 2020年の新潟港輸出コンテナ貨物の国・地域別割合 (%)



出所：新潟県交通政策局のデータに基づき作成

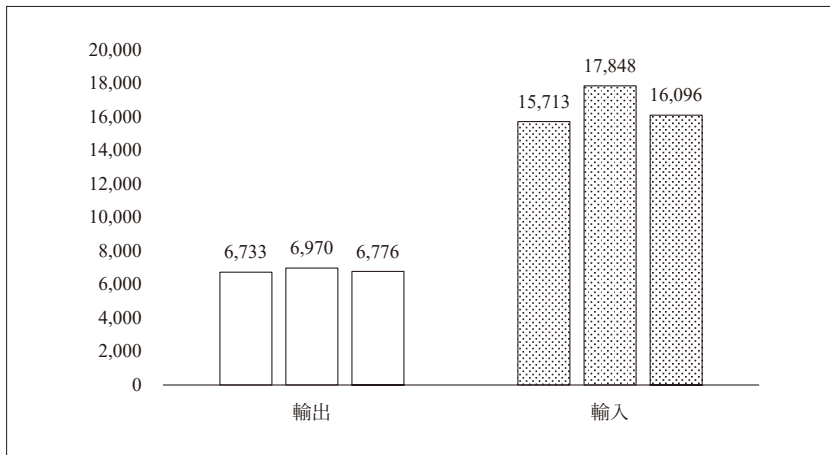
図9 2020年の新潟港輸入コンテナ貨物の国・地域別割合 (%)



出所：新潟県交通政策局のデータに基づき作成

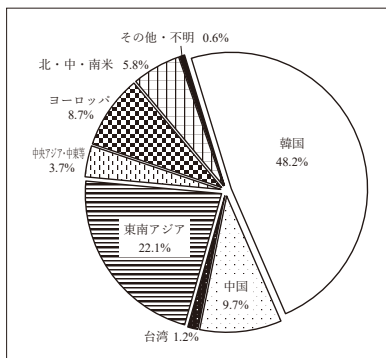
² 実入りとは、実際に貨物が入っているコンテナのこと。取り扱い実績は TEU であらわす。TEU は Twenty Feet Equivalent Unit の略記であり、20feet コンテナに換算した場合の個数である。40feet コンテナ1個=2TEU となる。

図10 2018年～2020年直江津港の輸出入コンテナ貨物取扱実績単位:TEU



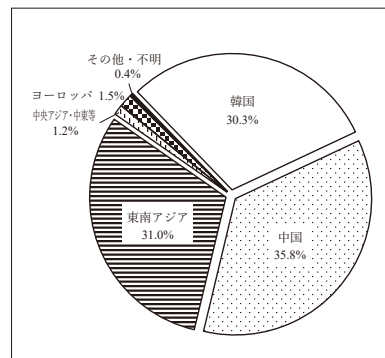
出所:新潟県交通政策局のデータに基づき作成

図11 2020年の直江津港輸出コンテナ貨物の国・地域別割合(%)



出所:新潟県交通政策局のデータに基づき作成

図12 2020年の直江津港輸入コンテナ貨物の国・地域別割合(%)



出所:新潟県交通政策局のデータに基づき作成

TEU、2019年では39225TEUと14%減となったが、2020年では40077TEUと2%増加に転じている。

輸入については、2018年で83806TEU、2019年は89301TEUと6.5%の増となったが、2020年では85509TEUと4%の減少となった。輸出入とも単位は異なるが、第2節の図3、図4で示した輸出入金額の推移とほぼ同じ動きを示している。2020年の輸出入コンテナ貨物の相手国・地域の割合を図8、図9で示す。

なお、2020年におけるコンテナ貨物の内容は、輸出では紙・パルプを中心とした軽工業品が約4割、輸入では家具・衣服・その他日用品などの雑工業品が同じく約4割とそれぞれ最も多い品目となっている(TEUベース、出所:新潟県交通政策局)。

3-2. 直江津港

直江津港についても同様に、2018年～

2020年の輸出入コンテナ貨物の取扱実績を図10に示す。

図10に示す通り、2018年の輸出は6733TEU、2019年では6970TEUと3.5%の増加となったが、2020年では6776TEUと3%の微減となった。

輸入については、2018年が15713TEU、2019年で17848TEUと13.5%の増、2020年では16096TEUと10%の減少に転じている。こちらも第2節の図5、図6で示した金額の推移と概ね同じ動きとなっている。

直江津港についても2020年の輸出入コンテナ貨物の相手国・地域の割合を図11、図12で示す。貨物の内容としては、輸出入とも化学製品が大宗貨物となっている。

なお、新潟港、直江津港の外貿定期コンテナ航路、コンテナ貨物の詳細については、新潟県交通政策局港湾振興課のホームページ(<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kowanshinko/>)を参照願いたい。

また、表3、7、11、15で示した財務省貿易統計による新潟港、直江津港の輸出入相手国ランキングと図8、9、11、12で示した新潟県作成の両港コンテナ貨物の国・地域別割合は、統計ベースの違い(金額、重量)や荷姿(コンテナ、バルク)の違いから差異があることを付記する。

おわりに

これまで、財務省貿易統計、新潟県交通政策局の統計等により、2018年～2020年における新潟港及び直江津港の輸出入状況を検証してきたが、幸いなことに米中貿易摩擦や新型コロナウイルスなどにより日本の貿易全体が受けているほどの影響は見られないようである。

但し、昨年末頃から、米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの感染拡大が国際物流に大きな影響を与えているとされる。2021年5月18日、19日付け朝日新聞記事「コンテナ不足 上・下」によれば、世界の海運業界でコンテナ不足が続いており、それが海上運賃の高騰や船腹予約の逼迫・納期の遅れを招いているとしている。コンテナ不足の原因は複合的で、まずコンテナメーカーが米中貿易摩擦などで抑えていた生産を新型コロナウイルスで一段と減らす、数か月後に工場生産を早期に回復させた中国から、巣ごもり需要が増えた米国向け貨物が急増、この急激な荷動きにコンテナメーカーが対応出来ず、コンテナ供給不足に陥った。同時に米国の港では新型コロナウイルス感染や検疫の徹底などで人手不足になり、貨物を下したコンテナがほかの地域に回らず、滞留する事態になったとしている。また、2021年3月にスエズ運河で発生した大型コンテナ船の座礁事故もそのことに拍車をかけたようである。日本の海運業界は、コンテナ不足の収束時期を今夏と想定しているが、「正直分らない」のが実情としている。

筆者が新潟港関係者から聞いた話によれば、こうした世界の物流状況は、新潟港発着のコンテナ貨物についても船腹予約や海上運賃などの面で少なからず影響を与えているとしている。港湾を経由する国際物流は、新潟県の産業や消費にとって極めて重要であることから、今後も注視し、情報収集を続けていく必要がある。